

平成 19 年第 1 回化学物質の内分泌かく乱作用に関する検討会 議事要旨（案）

- I 日時：平成 19 年 12 月 6 日（火） 17：00～19：00
- II 場所：中央合同庁舎 5 号館 2 2 階 環境省第 1 会議室
- III 出席委員：有田芳子、井上達、岩本公宏、上路雅子、北野大（座長代理）、
小出重幸、遠山千春、渡邊信
事務局：上田環境保健部長、木村環境安全課長他
- IV 議題：
- (1) 基盤的研究・野生生物の生物学的知見収集の推進について
 - (2) 作用・影響評価について
 - (3) 国際協力関係事業について
 - (4) リスクコミュニケーションの推進について
 - (5) その他
- V 議事要旨：
- (1) 基盤的研究・野生生物の生物学的知見収集の推進及びフィージビリティ
スタディーの公募について報告・説明が行われた。
【委員からの主な意見】
 - ・ 現在の基盤的研究では何が不十分であり、その不十分な点をフィージビ
リティスタディーによっていかに補うのかという点を明らかにして
欲しい。
 - (2) ExTEND2005 における作用・影響評価の詳細調査の検討について報告・説明
が行われた。
【委員からの主な意見】
 - ・ 化学物質の内分泌かく乱作用に関連する報告の信頼性を評価する際に
は、被験物質の環境中濃度を踏まえて評価を行う必要がある。
 - ・ 信頼性評価の実施方法や基準について明確にして欲しい。
 - (3) 経済協力開発機構への協力、日英共同研究及び日米二国間協力について
報告・説明が行われた。
 - (4) 平成 19 年度の化学物質の内分泌かく乱作用に関するホームページの運用
と更新状況、平成 19 年度身近な野生生物の観察事業及び平成 19 年度国
際シンポジウムについて報告・説明が行われた。
【委員からの主な意見】
 - ・ 国際シンポジウムのアンケート総数が少ない。アンケートを集める工夫
が必要である。
 - ・ リスクコミュニケーションは双方向の対話が大切である。ホームページ
でも、一方通行ではなく、一般市民の方々からご意見をいただき、でき

るだけそれにきちんと答えていくというような双方向の対応が重要である。

- ホームページは、子供が見ても分かるように、内容のレベルを落とさず、いかにわかりやすくするかという点に留意して作成して欲しい。また、常にアップデートして欲しい。
- ホームページは環境省の基本的姿勢が反映されているのが分かる形にした方がよい。また、日本語タイトルをもう少し短めにした方がよい。
- 野生生物の観察事業や国際シンポジウムなど、様々な事業を連携することで、相乗効果を高められることがあるため、連携により一層努めて欲しい。